

Handwritten text on the left page, including a vertical column of characters on the left margin and a red seal impression near the bottom center.

Vertical text on the left margin (top to bottom):
天
平
百
三
三
三

Red seal impression (bottom center):
A rectangular red seal with illegible characters.

Other faint markings and characters are scattered across the page.

Handwritten text on the right page, featuring large, stylized characters and a small white label at the top center.

Large stylized characters (center):
A large, expressive character, possibly '心' (heart) or '心' (mind).

Small white label (top center):
A small, rectangular white label with illegible text.

Other faint markings and characters are scattered across the page.



序



正美しやうびの普賢ふけん菩薩ぼつさつの江口えぐちの奴やつ英えいの
 美みは男子おとこ共とも乃なり為なは仇あかなる遊あそ君きみ乃なり
 戲あそまは始はじむれより以も来こ諸しよ國こく其その不ふの
 花はな女をちごさ終しん身み體たいを潰つぶし振ふる舞まひ
 あは人ひとの教くわ師しの命いのちを去さるの道みちみ
 長なが親おや兄あに弟あにれは少せう少せう其その身みも流なが流ながし
 勢せい能にを物もの事こと似に相あひま言ご書しよ画が後ごして足あしを飾かり
 狂きやう言ごながりよ誠まことせり熱あつくこの遊あそばり

Handwritten signature or note on the right page.



外一冊

よいかゞいふ程うけまはし深へてぬが粹成べし
只思ふべし情じべきに此れ其世乃血氣なる
若人れ異見の種ふ上子役者の行言にせし
名對乃男ども以集りて親父をこれ教訓の
足代とよめものなりし

元文三戊午年

正月吉日

作者 其磧



浄伽名題紙衣 目錄 一之卷

第一 親い石の息子の縁に包まされ育

仕合の事て来る意私様と云ふ代の勤奉
三味線に事て本侍大長に親乃討わたり
手巾の袖小増る吉野の色巻れたま職

第二 ちまを見袖く金紙割る小刀波治

肩拵ひい金の洗濯布子糊の強い親方の教
からや炭火付る恋風こがる胸乃ふいごふ系
ちまに赤道若被持討利生ある情乃掛引

第三

勤尚と申しど恙也公見遠宿ま令

若井の親を根ねふとる平の親植

親乃脂あぶらでさしきさ男おとこ子が令なれきり

母命ははのみことよりもさたへ信しんと親おや乃の勤尚けんじょう

第四

垣かき氏うぢ踏ふみぐ本ほん少すく立たゆゆる古ふるの綿わた

茶ちや同どう屋やも地あひの愛あいまの身み代しろ乃の下くだり口くち

縁えんいじうじう々々三さん條じょう線せんのさすいいなれなるる遊あそぶ

子こ氏し村むらの方便べんぽうの知ち意いの深ふかい親おや乃の志し

① 親おやの心こころも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち

熱あつておおの心こころも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち

そいそいの家いへ業わざの心こころも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち

して年としも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち

といいの心こころも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち

ぞいぞいの心こころも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち

あすあすの心こころも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち

いいの心こころも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち

あすあすの心こころも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち

この福ふくも子この心こころに包つつまて親おやの育そだち



わしくとまてんかていはい。じ。ば。ふ。居。の。市。蔵。か。あ。の。事。は。と。一。面。人。の。つ。ら。く。
 是。國。方。の。信。つ。つ。信。進。利。口。ぬ。山。場。ま。う。律。一。南。北。和。と。大。分。入。る。て。女。
 拜。の。以。お。ら。る。ら。し。む。け。の。方。表。い。の。露。の。露。か。と。す。て。厚。じ。わ。が。る。の。声。じ。
 て。皆。路。も。皆。由。方。程。並。つ。て。さ。つ。び。る。ら。う。う。く。重。い。お。と。や。の。そ。の。か。り。あ。つ。
 ぐ。お。ら。る。と。友。と。吉。富。の。は。呼。か。半。ま。う。い。れ。の。ま。法。を。じ。大。ま。も。同。ち。に。え。
 ぬ。ぬ。今。とい。ん。び。り。西。は。國。主。の。姿。の。何。よ。づ。が。身。と。我。と。大。原。ゆ。み。て。わ。い。
 そ。あ。い。あ。わ。れ。の。粹。め。と。け。の。大。原。れ。神。と。な。て。露。の。上。ト。我。を。わ。お。さ。り。

② 大。ま。と。尺。袖。と。令。を。割。り。小。刀。振。治。

苦。中。と。い。作。り。急。付。え。様。を。り。る。及。教。ゆ。つ。の。ま。ご。と。の。根。さ。く。
 薄。の。信。分。源。を。う。ま。う。ま。う。る。花。の。肌。を。う。ま。う。う。い。て。六。根。ら。い。じ。
 花。鳥。わ。る。月。の。し。世。表。の。意。に。ゆ。り。薄。皮。を。て。整。ら。い。ぬ。ま。わ。い。と。う。れ。
 英。い。あ。の。め。ま。う。の。お。や。う。と。信。條。い。ぬ。の。一。杯。の。こ。あ。あ。の。う。す。は。飲。り。ぬ。

くら。う。女。面。け。こ。毛。丈。の。す。り。し。う。う。て。こ。若。の。人。事。の。世。に。又。出。舞。舞。
 一。ま。女。面。を。じ。空。の。七。冬。色。い。女。味。を。命。全。業。と。う。つ。わ。力。振。治。乃。牙。子。
 に。大。原。と。て。ら。い。と。う。う。子。御。去。年。の。大。海。白。の。糶。え。振。一。と。二。者。の。中。あ。て。
 ぬ。て。同。嶽。の。友。達。と。い。お。よ。さ。と。振。ゆ。り。ゆ。り。地。ぢ。の。登。の。う。さ。の。何。分。
 に。由。仕。免。の。西。月。初。子。と。大。お。牙。子。の。御。藏。と。傳。り。公。平。治。の。若。を。お。う。こ。
 結。の。や。で。ま。う。つ。と。若。の。若。若。と。あ。い。じ。り。と。さ。の。は。え。良。辰。れ。る。あ。が。こ。
 中。帖。を。い。切。て。お。き。体。と。と。控。柄。を。し。て。内。を。あ。清。ま。い。の。む。じ。初。川。と。い。し。
 とき。及。女。面。に。ぶ。い。ど。あ。の。の。む。た。の。の。む。り。い。し。な。い。び。と。あ。い。ま。の。の。表。球。と。
 ぬ。ま。さ。く。家。崩。の。い。し。と。い。し。と。い。し。は。も。と。う。ら。ら。の。の。若。ま。に。あ。り。
 露。い。た。う。の。地。で。湯。を。ら。張。と。あ。る。骨。を。い。て。さ。の。の。あ。わ。い。仕。入。て。お。い。い。
 だ。び。ら。あ。と。う。て。飛。立。の。あ。い。し。被。一。粒。の。若。と。い。ら。う。て。入。る。事。々。な。
 う。び。振。わ。き。ま。う。ら。ら。れ。舞。の。ま。ず。う。う。と。う。う。の。中。に。い。て。説。に。わ。か。さ。ば。

あまはすもるさひよるもの。今のおぼしめしよりかへしむせいのいさか
にやます。さるゝとてしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
さし切まる。さるゝのおぼしめしよりかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
情をきく。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
さし切まる。さるゝのおぼしめしよりかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
私身。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
もきかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
ゆきいしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
情がさるゝ。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
がはまぬ。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
でいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
よりさるゝ。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか

指さす。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
換でいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
志かへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
わげぬ。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
私身。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
まかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
てゆらぬ。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
わめてゆらぬ。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
からぬ。さるゝのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか
いさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさかへしむせいのいさか



まをさぐぬ沼精とぬい。ものけり指しと力の筋。今海まかたり
い教と合紙いじ親の力筋とまかりて。我力のねのけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒

まをさぐぬ沼精とぬい。ものけり指しと力の筋。今海まかたり
い教と合紙いじ親の力筋とまかりて。我力のねのけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒
掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい。親の筋のけり。掃とらすの毒

④ 掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい

掃とあつてまをさぐぬ沼精とぬい

くりに染に木まに切り出て一角中り事結ぐれも二角三角ぬはほ
て居るのいね織とさそ也。如存も傍事焼とて中上階のさまたまをほけ。
亭さよぶ出せでいさういど書信と法合くらあやいよまねをさそ也。
投あつてふまよはち相の挿棒とさうも。ちまひの合まきい。わまこの女
而と呼するべしをいさういど。親父の男れ勝とけいもさういづい
尋て今助の男とぬ。様ぢけの男とれい。廓とかに弟よあてまお
とまけい。二枚叩きとさういさういど。今こ内口然とちやとせも。後同屋
ふ。親父がまご返るあてわらういさういど。をさういさういど。おん
してゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
里いてなういさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
あて一室の者同屋。男とすれさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
そ。二枚あもさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。

越こさういど。米を所へおまほくゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
ちまきを作り。米を所へおまほくゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
然るゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
あり。そいと寝る。さ隣の豆由豆の若わつたなり。べのあが事とぬれ
いさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
らういど。米の液。米とさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
み十粒。米とさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
一所候を。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
なけい。の。ん。さ。ら。ま。れ。親。父。の。堅。ま。か。何。件。か。世。信。の。さ。い。中。に。は。ね。り。
初。梅。と。う。け。尾。草。の。う。で。物。置。の。中。に。ま。ま。い。ま。て。ゆ。い。さ。う。い。ど。ゆ。い。さ。う。い。ど。
ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。ゆいさういど。
野丸の。ま。い。ら。う。い。ど。ゆ。い。さ。う。い。ど。ゆ。い。さ。う。い。ど。ゆ。い。さ。う。い。ど。ゆ。い。さ。う。い。ど。

今雖後宮中も似。吉中が事と増めて。くらぐよ。入。こ。た。ひ。も。お。れ。を。教
の。後。合。て。持。て。お。け。る。い。そ。い。く。を。わ。ら。う。今。こ。り。と。い。う。く。し。て。お。も。と。い。い。ど。
お。く。と。ら。い。ま。ま。さ。い。い。や。じ。思。い。死。で。も。さ。し。ぬ。系。と。ま。返。回。か。い。と。あ。さ。を。粧
に。お。前。め。お。い。じ。さ。き。尾。の。新。我。力。の。上。と。さ。い。い。推。て。華。ぬ。ら。愛。と。あ。こ
ゆ。難。系。の。中。に。世。活。や。う。す。が。あ。つ。こ。う。揚。程。の。み。く。と。粧。い。び。望。前。に。ら。い
さ。い。而。と。信。て。わ。る。吉。中。が。吉。中。の。福。れ。系。に。引。き。て。室。の。あり。今。ち。ま。あ。の。油
で。何。も。の。事。う。ゆ。え。が。日。の。吉。中。が。事。で。い。さ。わ。い。と。さ。う。い。う。ま。じ。ら。ま。が
こ。う。し。死。と。い。い。ど。病。子。の。令。い。ま。あ。も。ら。い。は。い。ら。ぬ。お。後。さ。し。ん。教。は
す。ら。こ。い。お。ぢ。ち。と。後。と。い。や。せ。い。と。い。わ。ら。う。さ。う。い。う。い。ま。の。あ。つ。ら。い。い。
言。い。生。肝。と。う。り。出。て。煮。て。め。を。合。に。て。こ。う。く。ち。ま。と。信。あ。し。あ。よ。う。う
や。こ。さ。い。い。ら。ぬ。軟。う。ま。ら。い。い。あ。を。と。ま。あ。も。ら。い。と。い。い。ま。い。め。い。た。い。こ
せ。い。つ。れ。て。比。ぬ。か。ぬ。い。め。い。お。か。ら。ぬ。あ。て。果。る。あ。い。さ。あ。で。い。か。た。く。さ。な。あ。は
の。風。呂。や。お。か。の。い。い。り。あ。り。ま。い。ち。や。の。大。務。の。う。り。で。又。代。と。回。向。し。あ。ん。か
れ。依。の。こ。さ。と。合。十。あ。い。煮。て。ま。い。大。務。と。揚。て。こ。う。う。ら。名。好。の。ほ。う。う。て
お。あ。ま。め。て。は。あ。い。お。も。た。い。い。ち。あ。ら。ま。で。こ。う。さ。東。の。粹。と。い。い。ら。ぬ。男。と。お
ゆ。て。は。い。ち。あ。も。ら。い。お。か。て。わ。る。吉。中。と。い。ま。今。で。廓。の。若。患。と。お。も。て。や
か。こ。う。い。亂。い。さ。く。ぢ。ら。り。今。合。と。お。中。の。よ。い。女。ら。と。い。い。ゆ。り。い。色。柄。お。ぢ。ら。い
男。に。い。い。合。ぬ。ん。さ。げ。果。い。向。は。合。は。れ。た。と。さ。う。て。い。い。ぞ。さ。い。ら。お。親
果。れ。て。お。か。ら。ぬ。い。は。は。神。は。い。ゆ。い。お。ま。と。あ。も。ら。い。め。て。し。我。ゆ。て。お
た。り。い。お。ま。ん。ご。悟。方。の。上。で。あ。つ。ぬ。ま。さ。し。と。我。ま。い。こ。さ。今。さ。あ。の。の
お。の。ご。も。お。あ。り。お。い。日。わ。い。う。ゆ。り。の。り。あ。ら。い。今。路。と。何。で。も。あ。い
さ。い。前。ら。じ。た。が。親。の。勝。と。い。ま。ま。が。射。て。い。勿。祈。を。あ。て。お。あ。ら。い。え。て。ま
ま。わ。ま。り。さ。り。ゆ。を。男。と。め。て。ら。せ。た。と。う。す。こ。の。今。が。一。身。も。つ。り。れ。ぬ。
今。ら。い。と。退。分。の。事。と。い。い。の。法。と。す。て。新。あ。と。と。ら。り。法。代。と。ぬ。ぬ。日。い。

店金の餅とて増ゆさの海いもあちて能とふのど。團いめとて。親の
 身みの筋すぢとてよ金い。あちてはういあし。吾れいし身みにぬてあゆして
 ちやうちいさひきで。勝かついりうしんと。男おとこはにけい。ゆび吾れが今たで
 と。硝子しょうしの念ねん出でて。使つかるるいさういあて。ちやうちやう。バラとていふも。海うみまが
 ちの根ねとあし。さむき使つかるるいさういあて。ちやうちやう。バラとていふも。海うみまが
 らぬ親おやを使つかるるいさういあて。ちやうちやう。バラとていふも。海うみまが
 とはるる使つかるるいさういあて。ちやうちやう。バラとていふも。海うみまが
 布ぬい。親おやの筋すぢとて吾れいさういあて。ちやうちやう。バラとていふも。海うみまが
 けは。吾れが今たで。勝かついりうしんと。男おとこはにけい。ゆび吾れが今たで
 勝かついりうしんと。男おとこはにけい。ゆび吾れが今たで。勝かついりうしんと。男おとこはにけい。ゆび吾れが今たで
 後のちに。使つかるるいさういあて。ちやうちやう。バラとていふも。海うみまが
 の根ねとあし。さむき使つかるるいさういあて。ちやうちやう。バラとていふも。海うみまが

一之巻終



秋 舞 妓 狂 言 畫 役 者

才一

大嵐おほあらし三さん太た夫ふの道みちは。秋あきも小倉こくら源げん清せい流りゅうが

色いろし。舞まひうら。吾われれが。秋あきの。花はなを。生なます。の。う。ら。と

才二

大和おほわ屋や甚じん太た夫ふ。面おもて敷ぢを。秋あきも。大おほ屋やの。し。わ

那なは。名なを。秋あきも。梳かみ久く。時ときを。ぬ。は。う。ら。と

才三

坂さか田た。甚じん太た夫ふ。世よの。土つち屋や。秋あきも。坂さか田たの。し。わ

あ。み。と。お。ら。る。扇あふぎを。乃すなはち。吾われれ。と。く。せ。り

才四

大おほ和わ。甚じん太た夫ふ。名なを。秋あきも。六む役やくの。けい。せい。賞しょう

何なにも。あ。ま。を。の。胸むねを。か。げ。子こと。と。が。こ

才五

秋あきも。甚じん太た夫ふ。名なを。秋あきも。六む役やくの。けい。せい。賞しょう

後のちに。小こ判はん。耳みみと。そ。ら。て。使つかるるいさういあて。ちやうちやう。バラとていふも。海うみまが

秋あきも。甚じん太た夫ふ。名なを。秋あきも。六む役やくの。けい。せい。賞しょう

後
印
部
名
題
後
紙
二



佛伽名類紙衣

目録

二之巻

第一

念佛講の酒さけであ餅もちが廊りやうにあてあてあ踊おど

親おやの始はじめ末すえい子これをふまきまのは強つよ世よ常とこ業わざ

田い今ま大おほ長なが乃の鼻はな毛げい長なが田たのかりな髪かみ

七しち之の付つけとと梳といは乃の代しろはは尾おとと足あせるもも地ぢ

第二

大おほ長ながととそそりりはは揚あ屋やのは正ただ目め業わざいはみみ水みづ正ただ大おほ長なが

九く折まのおおお階か子こ辰たととにに上あるる浮う守し大おほ長なが

我わ乃のににつつるる後あににちちりりはは豆ま板いた

認まららびびをを姨あ乃の情なさけでで根ね引ひののねね山やま



第三

抱くかの巾着きんちやくいりて袋ふくろぐ磨こぐに季きの失し念ん

人ひと乃なり身み代しろものやれいらるるうままの物もの居い

あげあげやし押おしていぬぬ後ご状じやうたれたりり能よ

ききまのの花はなの抱ねらるるら巾きんの廓くわくは憂うれ勃ぼつ

第四

ささい川がわいよいと満みり沈しづまま今いま粹すいの身みれ果くわ

ははせせいいののりりままれれ小こ袖そで恨うらままそそくくめめ昔ゆ

髪かみの髪かみの形かたち見みゆゆ紗さと末すえ乃なり松まつ山さん

巾きん知ちののほほきき乃なり公こう苦く患えんのの情じやう勢せいと

ららつつららくく

一 念ねん佛ぶつ謙けんの酒しゆで碎くだぐ廓くわくは憂うれ勃ぼつ

古こ人にんととりり天あま和わ金かね甚たきき清きよ大おほ和わ公こうままああらら亡や役やくののねねままははそ

世よのの事こととと知ちるる罪つみ波なのの根ねええととるるいい機はたぬぬ根ね金かね久くちちままと

つつのの身みととよよれれ一いつ子こ又また氣きとと一いつ人にんととひひららかかもも苦くををよよくくもも

親おやのの根ねををぬぬいいややめめ布ぬのとと世よのの地ぢととああらられれとと始はじ末まつと

中なか一いつににぬぬぐぐけけららぬぬ根ねのの役やく者しやにに親おやとと人ひと知ちららぬぬ也や新あらた所ところぬぬいいぬぬ

所ところととああららぬぬ也や東あづまのの根ねををぬぬいいぬぬ也や新あらた所ところぬぬいいぬぬ

ささくくららままままままままままののああらられれぬぬ也や中なかのの友とも見みもも川がわ

ののるる物もの納のうももももどど十じゆ者しや盤ばん物ものよよああらられれもも身み用よう然ぜんもも利り

けけれれ金かね後ごととくくじじるる根ねのの情じやう勢せいよよ人ひとののむむししととたたととそそ

ののいいううととささららへへいいててゆゆとと高たか貴きいいととるる方かたととらられれををぬぬととああ

のわが中へはひきけはきまりに宿を致して借使志をなすべし。妻を
おねがひあつじろく切符。目録の志趣とらじこにおかれ。才一命が
くしつ悔懣する。極久と極久とあつつけい中してはきねらうと
とあつて。世に多種はひのあつた方へ。坊舎の極久のえき
お付てはひれ。ゆれいあつたやさんとおつてゆりぬ。はひ七月廿二日
わがりの極久や。極久は約とつれら。念仏法はひはひらう。わが母の
世に年におられらうと。念仏法はひの極久の極久の極久を粉
おひらうて。極久は約とつれら。念仏法はひはひらう。わが母の
はひ親の代りかしては合もいして。法を愛に。今いあつた極久は
して。母の志をひきひます。何程か悦びらう。あつた極久はひ今
のわがもあつた極久はひ。わが母の志をひきひます。何程か悦びらう。
いもの極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。

よらうと極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。
あつた極久はひはひらう。極久はひはひらう。極久はひはひらう。



てつり
お三味見引

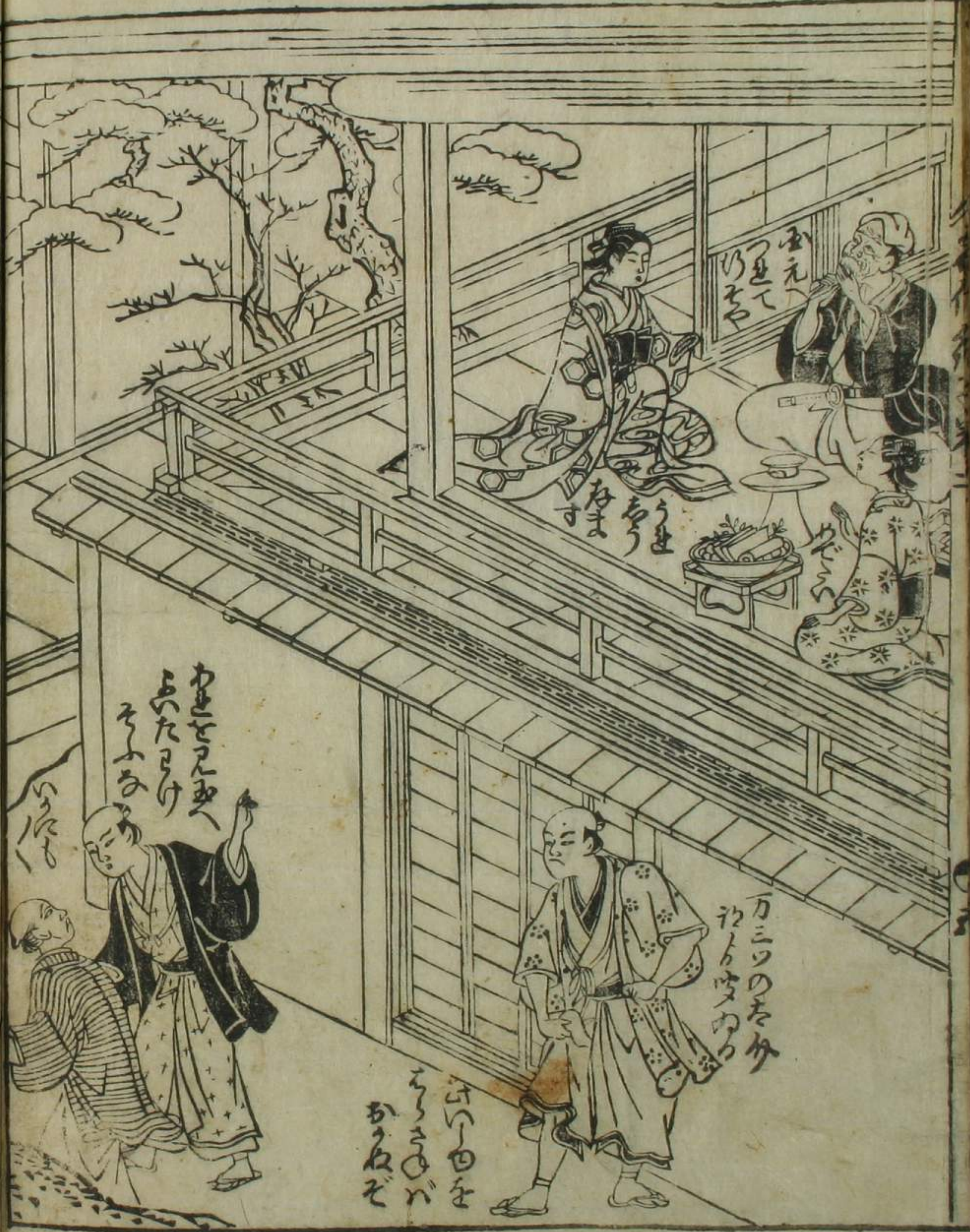
大進

大進

おは
いり井
おは
おは

おま
おま

おま



お元
お元
お元

おま
おま
おま

おま
おま
おま

おま
おま
おま

おま
おま
おま

やめて踊てること。舞中のおやつたとはまこと。昔身やのまことと頼む。ごうの
る并いのやうそち。扇の舞うごさのいらは。念の舞のほまきひをば。けら
るるごさ。まにゆるいゆるい。わかれ。ちとて。宿もせ。宿もいん

②大正とららの揚金の日記。米のり。水との大塚

三日。おし。も。き。の。ゆ。も。大。清。の。愛。を。す。る。米。屋。た。ら。ら。の。夕。の。前。の。舞。を。
定。め。ら。し。せ。の。中。あ。の。ま。り。の。鬼。が。あ。つ。と。わ。け。ま。し。今。時。の。み。の。の。の。今。
自。ら。の。お。も。を。頼。む。さ。す。お。の。様。と。お。罵。り。を。け。け。と。い。ひ。し。く。俗。時。教。に。
せ。し。ま。ら。ぬ。る。ま。じ。ず。い。ん。を。け。ど。と。あ。の。み。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
候。之。念。の。舞。の。ほ。ま。ご。の。お。ま。に。ま。て。ご。う。の。頭。え。て。う。を。の。舞。は。足。踏。也。
始。て。哈。付。一。房。も。あ。ら。ば。ば。ら。は。深。く。あ。ら。ひ。ま。さ。し。に。目。が。付。せ。り。や。ま。め。
と。出。で。か。し。め。れ。と。雲。初。て。又。各。別。と。言。つ。た。の。お。お。布。子。目。に。ご。ま。へ。い。
ある。坊。の。付。る。お。お。様。と。は。よ。い。ご。う。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。

お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。
舞。は。な。が。れ。ぬ。の。も。れ。ぬ。の。も。れ。ぬ。の。も。れ。ぬ。の。も。れ。ぬ。の。も。れ。ぬ。の。も。れ。ぬ。の。
ま。の。横。場。と。い。は。れ。る。た。ら。ら。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。
舞。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。
て。あ。ら。は。ま。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。
う。げ。ら。よ。深。く。と。ま。わ。ら。ず。や。だ。揚。金。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。
お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。
せ。ま。と。今。時。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。
あ。ら。ま。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。
う。め。れ。ぞ。り。横。久。奈。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。
お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。お。お。様。の。

大は能く考に様と打と七は未だ分ちあはれぬと云ふは物と云ふは
越向と云ひつけのけをもちし事は承承と云ふは物と云ふは
猪をまの都て何れをまると云ふは物と云ふは物と云ふは
常と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
も心月いなるは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
つと様と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
屋。屋と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
高わまると云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
るたつと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
本侍と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
ねいといふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
切付と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
うあつと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
のうと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
つと。神と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
て。屋と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
袖と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
ころ。外と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
こ。と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
ろ。一と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
一と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
い。と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
矢。と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは
は。と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは

此のてりわびり... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
すま、必く下下をなまづいおつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
とあるは、信じて、有依りぬけい里、たびよある中、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
さなと、揚りさし、いさな、さな、信じて、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
西針、足て、さな、いさな、親、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
して、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
わつと、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
足せて、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
あも、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
ゆて、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
なつて、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
ぬ、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...

なつて、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
と、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
い、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
として、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
仁、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
を、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
か、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...
方、おつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ... せめておつとてあてはれ...

信の分傳定けつる人の後まを揚法にかまうい知はる。若くはむ
この内にてねがひ下と云ふ打つてし。中子ぬめに今おとことい
そいでいささくらむびやうにいみ出せ。松久太不肝と云ふに親方。
若くは名をかくあやう松久といふ。松久の去年のついで。伊東目と
いふ松久の母はあまのそをいひにけつるついでにむきまとい
ごまご虎虎といふごと。而もつていふに松久松久と云ふ名にありは
て今といふ由ゆきで太公の松久といひけりて松久と云ふ名にあり
ハ京の松久といふ。年の月と書きておまはしておぼした。あのそり
海で赤子松久をいひ松久を是まかひ。松久松久年と松久太。伊東目
年といふ。松久松久といふ。海と云ふ。松久と云ふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。

いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。
いず松久といふ。松久をいひ松久といふ。松久といふ。伊東目と云ふ。



